

# 標準施工要領書

タイトワン コテ

ヤブ原産業株式会社

〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷5-4-6

TEL 048(297)4111 FAX 048(290)1199

## 1. 特 長

- ・材 質 カチオン性アクリル粉末樹脂入り既調合セメントモルタル
- ・施工方法 コテ塗り
- ・用 途 各種塗材への仲介下地調整  
陶磁器タイル、大理石、テラゾー等への仲介下地調整  
コンクリート、モルタル等の欠損部補修及び中性化抑制
- ・適用下地 コンクリート、モルタル、エポキシ系塗床材、アクリル系防塵床材、磁器タイル、防水型を除く複層塗材上塗（アクリル系、ウレタン系）、Pタイル接着剤（アクリル系、エポキシ系）、テラゾー等々

## 2. 工 程

工 程	材 料 ・ 調 合	施工器具	使 用 量	塗回数	間隔時間
主材塗り	タイトワン コテ 主 材：15kg 清 水：2.8～3.5ℓ (標準混連水量 3.0～3.5ℓ)	コ テ	1.7kg/m <sup>2</sup> (1mmの場合)	1～2	23℃で 12時間以上

※上記の数値は全て標準のものです。施工下地、温度等環境条件により多少のずれが生じることがあります。

## 3. 工 法

### 3-1 下地処理

- 1) 下地表面のレイタンス・ほこり・油脂等は、ケレン及び水洗いにて除去してください。
- 2) 脆弱な無機質下地の場合は、浸透プライマー又はガッチリ浸透プライマーWで下地強化してください。
- 3) 補修の際は、下地が躯体に対して十分な接着力があるか確認してください。十分な接着力のない場合はケレンしてください。
- 4) 下地に撥水剤が塗布してある場合は、接着できないものもあります。あらかじめテストを行い、確認してください。また、ワックス類が塗ってある床仕上げ材の場合、ワックスクリーナー等で洗い落としてから施工してください。
- 5) ポリエステル、FRP、アルミニウム、ステンレス、軟質塩ビ、油面には接着できません。

### 3-2 混練方法

- 1) 練りませ容器に、まず清水 2.8～3.0ℓ を入れ、主材パウダーを徐々に加えながらハンドミキサー等でペースト状に練り上げます。使用目的に合わせ 0.5ℓ 程度の清水で施工に適した粘度に調整します。この際、標準混連水量以上の清水は入れないでください
- 2) 一度に混ぜ合せる量は、可使時間（夏期 30 分、冬期 60 分）以内に使いきる量とします。

### 3-3 主材塗り

- 1) 施工はコテ塗で行います。塗厚さは1 mm以上としてください。但し、コテによるもみ過ぎに注意してください。
- 2) 滑面へ塗付ける場合は、一度しごき塗りしてから追かけで所定の厚さに塗付けてください。
- 3) 部分補修すると、その部分の吸込み性が異なり、仕上材の色ムラの原因となります。従って、均一な仕上げの為には、全面処理を必要とします。

## 4. 注意事項

- 1) 可使時間（夏期 30 分以内、冬期 60 分以内）を過ぎた材料を無理に練り戻して施工することは避けてください。硬化不良の原因となります。
- 2) 厚塗りする場合は、5 mm以内としてください。塗重ねる場合は、5 時間以上経過した後としてください。
- 3) タイトワン コテの上にセメントモルタルを施工する場合は、ガッチリ浸透プライマー W を塗布するかポリマーセメントモルタルとして施工してください。
- 4) タイトワン コテ塗り後、モルタル、磁器タイル等重量物により仕上げる場合は工程間隔を3 日程度以上とり、カチオンタイトが十分に硬化した後としてください。
- 5) 強風時での施工及び施工後 12 時間以内に降雨のおそれがある場合は、施工を避けてください。また、3°C以下での施工も硬化が十分に果せませんので避けてください。
- 6) 下地が多少湿っていても施工できますが、濡れている場合は拭き取ってから施工してください。
- 7) 主材パウダーは水硬性ですので、水や湿気には十分注意して保管ください。
- 8) 清水以外のものは混入しないでください。
- 9) 材料の取扱いについては、製品に記載された注意事項をよく読んでからご使用ください。その他詳細な内容が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

## 5. 梱包形態

	内 容 量 (kg)	形 態	標準施工面積 (m <sup>2</sup> )
15kg	パウダー : 15	紙 袋	10.5 ( t = 1 mm の場合 )